

令和2年度 後期学校評価（最終評価）の分析

今年度は、実質的に全校生徒がそろって登校できるようになったのが6月15日からと、かなり遅れてのスタートとなった。前期学校評価アンケート実施時期は例年とほぼ同時期（7月中旬）に実施しているため、実際には学校生活が始まって1ヶ月余りしか経っていない時期のアンケートである。後期アンケートも例年と同時期（12月中旬）に実施している。

（1）「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

各種指標結果

各指標に対応する生徒、保護者の質問項目において、「そう思う」、「大体そう思う」の肯定的な意見の割合について、

- ・「先生は教え方を工夫し、わかりやすい授業をしている。」生徒93.4%（前期比+1.2%，前年同期比+10.5%），保護者80.2%（前期比+2.6%）という割合であり、生徒の前年同期比では高い伸びである。
- ・「授業中は先生の話をしっかり聞いている。」生徒89.4%（前期比-1.8%），「子どもは授業中のルールを守って、落ち着いて学習している。」保護者89.4%（前期比+1.8%，前年同期比+12.2%）とやや高い割合であり、保護者の前年同期比では高い伸び率である。
- ・「自分で予習や復習など家庭学習ができる。」生徒59.2%（前期比+0.4%），「学校は家で予習や復習など家庭学習ができるように取り組んでいる。」保護者54.0%（前期比+1.2%，前年同期比-10.4%）とやや課題がある。
- ・「朝読書や図書室などで本を借りて、読書に積極的に取り組んでいる。」生徒57.3%（前期比-1.2%，前年同期比+11.1%），保護者50.5%（前期比+4.9%，前年同期比+7.4%）と低いながら伸びている。

分析（成果と課題）

授業において教員が工夫し、生徒同士で授業の内容に関して対話的に取り組むことについて、生徒、保護者ともに意欲的に取り組めていると感じており、前年同期と比較しても高い伸び率となっている。授業改善の取り組みとしては成果が出ている。「自分で予習や復習など家庭学習ができる。」は前期比で余り変化はないが、保護者の前年同期比では-10.4%とかなり落ち込んでいる。「朝読書や学校図書館の本を借りて読書に積極的に取り組んでいる」については、前年同期比では生徒、保護者とも伸びており図書館整備と図書館利用の授業の増加等により少しほは図書館が生徒にとって身近な場所になったように思われる。また、生徒より保護者の方が厳しく捉えており、いずれにしても「家庭での自学自習の習慣化」に向けては、今後の課題といえる。

分析を踏まえた取組の改善

各教科において、授業改善の取り組みを行い、「先生は教え方を工夫し、わかりやすい

授業をしている。」「授業中は先生の話をしっかり聞いている」の回答は90%前後とますますの高い評価であるが、実際にジョイントプログラム、学習確認プログラムの結果として学力の定着として表れていないのが昨年までの傾向であったが、今年度は、学年により差はあるものの若干の伸びを示している。授業において基礎・基本的な学習を進め、学習に必要な素地を築くことと、言語活動に重点を置き、対話的な学習の中で、自ら考え、自ら学ぶ力につけること、この2つを取り入れた授業展開を意識してきたが、さらに、毎時間の授業で「振り返り」、「整理・まとめ」等々の工夫は今後も必要である。また、「家庭での自学自習の習慣化」に向けて、生徒の自主的な学習を促し、授業につながる家庭学習を設定する必要がある。学校図書館については、拡幅工事により図書館自体を大きくし、昨年より環境整備と蔵書数を増やし、快適な改善をはかり、各教科で図書館活用の授業を推進した結果、生徒にとって学校図書館がより身近な場所となってきたようだ。

（2）「豊かな心」の育成に向けて

各種指標結果

各指標に対応する生徒、保護者の質問項目において、「そう思う」、「大体そう思う」の肯定的な意見の割合について、

- ・「学級活動や学校行事に協力して取り組めている。」生徒86. 6%（前期比+2. 3%）、保護者83. 0%（前期比+2. 7%）とますます高い割合である。
- ・「子どもの人権意識を高める指導がされている。」生徒92. 3%（前期比+8. 4%）、保護者80. 1%（前期比+5. 8%）という割合である。
- ・「生徒会活動や部活動で生徒の自主的な活動が行われている。」生徒90. 5%（前期比+3. 2%）、保護者85. 6%（前期比+3. 8%）と高い割合である。
- ・「自分から進んで、あいさつをしている。」生徒82. 4%（前期比+0. 6%）、「子どもはしっかりとしたあいさつをしている。」保護者82. 2%（前期比+3. 9%）と高い割合である。
- ・「学校のきまりや公共のマナーを守っている。」生徒94. 3%（前期比+1. 4%）、保護者94. 3%（前期比+3. 5%）と非常に高い割合である。
- ・「友達や家族を大切にしている。」生徒96. 2%（前期比+0. 6%）、保護者96. 8%（前期比+0. 8%）と非常に高い割合である。

分析（成果と課題）

学校・学級行事、部活動、生徒会など様々な取り組みによって、いずれの項目においても8割から高いものでは9割を超える高い評価となっており、成果として捉えられる。しかしながら「友達や家族を大切にしている。」「学校のきまりや公共のマナーを守っている。」という質問項目の結果数値は実際とは多少開きがあるよう見える。「子どもの人権意識を高める指導がされている。」という質問項目の結果については、12月の人権学習の取り組みに力を入れたこともあるが、今後も意識向上を図る取り組みが必要である。

分析を踏まえた取組の改善

今年度は様々な取り組みが、コロナ禍において、縮小や形を変えての実施となったが、今後、働き方改革の観点からも教職員の負担を減少させながら、いかに質の高いものにしていくかがポイントである。今年度の重要な位置づけとした一つに「人権意識の向上」があったが、12月の人権学習も昨年よりも充実したものとなり、全校あげての『人権の木』の作成は成果があったと考える。その結果はアンケート結果にも表れた。また、教職員自身の人権意識の向上とより高い指導力を身につけることを課題としてきたが、2月に実施された「人権交流京都市研究集会」へも13名の教職員が参加するなど意識向上が図れたと思われるが、今後も引き続きそういった意識を持ち続け、子どもたちを啓発すると共に、今後は保護者へも働きかけをしていきたい。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

各種指標結果

各指標に対応する生徒、保護者の質問項目において、「そう思う」、「大体そう思う」の肯定的な意見の割合について、

- ・早寝、早起き、朝食など規則正しい生活ができている。生徒74.3%（前期比+3.9%）、保護者67.5%（前期比-0.7%）である。
- ・遅刻をしない、ベル着をするなど、時間を守ることができる。生徒87.2%（前期比-0.7%）、保護者87.7%（前期比-2.0%）を示している。

分析（成果と課題）

定期的な保健だよりの発行や、毎日の登下校指導、ベル着の声かけ等の地道な取り組みによりますますの数値を出している。前期比では一となっている部分が多いが、前年同期で見ると十の数値を示している部分が多い。各家庭で、早寝、早起きを実践し、1日の学校生活に向けて必要なエネルギーを補給するための朝食をとることなど、各家庭での教育、子どもへの働きかけが課題であると思われる。

分析を踏まえた取組の改善

早寝、早起き、朝食など規則正しい生活ができるようにすることも、遅刻、ベル着など、時間を守る意識についてもいすれも委員会活動を有効活用し、取り組んでいく。

また、この項目についてはある程度、特定化されてきているので、懇談会などを通じて、保護者・生徒自身に重点的に個別指導を充実させていく必要があると思われる。

(4) 小中一貫教育の取組について

各種指標結果

今年度については、コロナウィルス感染拡大防止の観点から、小中合同研修会や、各主任の連携会議も十分に実施できていない現状である。

分析（成果と課題）

様々な場面ではリモートでの会議や研修会が実施されていることを考えると、小中連携の中でも取り入れなくてはならない。また、ジョイントプログラムの分析結果を基に、中学校としてのこれから課題を明確にしていくことと、小学校として中学校までにつけておかなければならぬ力をお互いに共有していくことは、今後も課題である。

分析を踏まえた取組の改善

コロナ収束後は可能であればやはり小中合同研修として、小学校教員と中学校教員が積極的に意見交換できる研修会を開催したい。お互いの小中間で授業参観の機会をつくり、行き来することを検討していきたい。

また、小中の各分掌等の連絡会を定期的に開催できるようにも改善していきたい。学力向上に向けて、小中双方の立場から教育活動のつながりや課題を共有し、9年間で生徒を育てるという意識を高めて行けるように改善を図りたい。

（5）いじめの防止等についての取組について

各種指標結果

- ①学校いじめの防止等基本方針の内容について、教職員が理解することができた。
- ②全校集会にて、学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介した。
- ③「いじめに関するアンケート」及び「クラスマネジメントシート」の結果を受けて必要な情報共有を、学年会、職員会議などの時間を利用して行った。
- ④各種アンケートや教育相談、懇談会、保護者からの相談等で出てきた内容は、学年会、全体打合せ、職員会議を利用し、情報共有をした。

分析（成果と課題）

学校いじめの防止等基本方針について、教職員で理解を図るようにしているが、基本方針を踏まえた取組についての研修を設けていくことが今後の課題である。

学校評価生徒アンケートの「先生は悩みや相談について気軽に応じてくれる」について、肯定的な回答は88.9%（前年同期比+10.8%）であるが、学校評価保護者アンケートの「学校に悩みなど気軽に相談できる」については58.0%（前年同期比-15.5%）と大きな開きがある。ここを埋めること今後の課題である。

各種アンケートで出てきた情報については、共有することができたが、日頃より生徒の発する情報にアンテナを張り、いち早く情報を得ることが今後の課題である。

分析を踏まえた取組の改善

生徒指導研修の場や、生徒指導委員会、補導部会等で、生徒指導の事例や研修の事案と学校いじめの防止基本方針の内容について、照らし合わせて確認し、理解を深めていく。

先にも述べたが人権教育の充実がいじめ事案の減少に必ずつながるものであり、今後も引き続き、我々教職員自身の人権意識の向上とより高い指導力を身につけること保護者への働きかけをしていきたい。毎日の学年の打合せを利用し、生徒の日々の様子を共有し、学校体制、学年体制として情報収集できる体制をつくる。